



# 看板から始まる 日本語学

—茂木コレクション 2020夏—

茂木 俊伸

MOGI Toshinobu

熊本大学文学部説明会 文学科「研究室訪問」

(2020年8月)

1

熊本大学文学部で「日本語学」の分野の授業を担当している、茂木（もぎ）と申します。現代日本語を研究しています。

この資料は、ここ数年のオープンキャンパスや大学祭の模擬授業などの機会に高校生や一般の方向けにお話ししている内容を、再構成したものです。

オープンキャンパスでスライドをお見せしながら一緒に盛り上がりたかったところですが、オンライン説明会ということで、文学部での学びや日本語学に興味を持っていただくことを意図して、この資料を公開します。

この資料は、まずは上半分のスライド部分を読んで、ツッコミを入れつつ考えてみてください。そして、その結果を、下半分のこの部分に書かれた説明（ノート）で確認する、という読み方をしてください。

## はじめに

### ■ 今日のお話の内容

- 大学で学べる(学んでほしい)こと
  - 大学(学部)の学びについて
  - 面白い勉強とはどういうものか
- 実際に“学問している”例
  - 「日本語学」への招待
  - とにかく本人が楽しんでます！

2

以下の構成を説明しておきます。

まず、この資料の最初の部分(次の2枚のスライド)では、「大学の学び」について簡単に説明します。

大学では、「好きなことを好きなだけ勉強していいんだよ」と言われます。受験のためでもなく、周りの大人のためでもなく、自分で楽しいと思えることを勉強してほしいのですが、ある程度の目標は必要ですよ。

教える側として、こんな感じの大人になって巣立ってほしい、ということを簡単にまとめます。(この資料の最後にまた戻ってくるのですが、こういう話に興味のない人は、写真があるスライドまで読み飛ばしてもらってかまいません。)

残りの部分が、いよいよ本番です。(わくわくすっぞ！)

私(茂木)が集めた画像のコレクションを見ながら、日本語について一緒にいろいろ考えたいと思います。

## 大学の学びとは？

### ■「専門的な勉強をする」とどうなるか？

- ・「もの知りになる」？
  - ・知識を得るだけなら、自分でもできる。

### ■深い「分かる」を目指そう！

- ・“自分が面白いと思う《問題》を見つけ、
- ・それぞれの学問の方法を使って考え、
- ・自分なりの《答え》を見つけて、それを論理的に他者に説明できる”状態。

3

高校生の皆さんは、大学では専門的な勉強ができるよ、と聞いていると思います。ところで、「専門的な勉強」ってどういうものでしょうか？

例えば、ある特定の分野や話題について「よく知っている」状態になるだけであれば、ネットで検索すればある程度の知識は得られますし、それは大学に入らなくてもできることです。

大学で目指したいゴールは、もっと深いところにある「分かる」です。大学には人類がこれまで取り組んできたさまざまな問題に関する知の集積があります。私たち教員は、それらを適切に理解し、活用しながら自分で「考える」ことで初めて到達できるところを目指してほしいと考えています。そして、大学の4年間の学び(カリキュラム)は、それができるように段階的に組み立ててあります。

選ぶ分野は何でもかまいません。皆さんが、それぞれの分野の学びを通して、自分で「これは面白そうだ」と思えるような問題を見つけ、それを学問的に意味付け、解決の手順を考えて自分なりの答えを見つける。そして、それを同級生や後輩に説明して「面白いね」と思ってもらおう。それが、大学で勉強して、胸を張って「私の専門はこれです」と言えるようになることなのです。

## 大学での学びのあり方

### ■勉強 ≠ 「与えられるもの」

- ・ 知りたいこと・面白いことを見つける。
- ・ 自分でどんどん調べ、あれこれ考える。

### ■価値観をゆさぶられる。

- ・ 新しいことを知って、視野を広げる。
- ・ 知っていることでも、視点を変えて見る。
  - ・ 例えば、普段は意識せず使っていることば（日本語）を、どう意識するか。

4

皆さんにとっての「勉強」のイメージは、教科書に書いてある内容や問題を解く手順を覚えることが中心にあるかもしれません。しかし、大学では、授業中に先生が、教科書に書いてあることを「正確ではない」と言い切ったり、「こんな現象があるんだけど、まだ謎なんだよねー」と言い始めたりします。そんな無責任なことがあっていいんでしょうか。……いいんです！

世の中は分からないことだらけであり、教科書に「答え」として示されている内容も、現時点での暫定的なものだったりします。授業の内容はあくまでも学問の「入口」です。私たちは、学生たちが授業と自分の興味・関心とを結び付けて、どんどん知りたいことを見つけ、本や論文を読み、先生に質問し、議論をふっかけてくれることを願っているのです。

そういう意味では、大学の授業は、常に皆さんの価値観をゆさぶるものでありたいと考えています。それには、皆さんがまだ知らない、新しいことをお話するという方法がありますが、もう一つ、皆さんが既に知っている（と思っている）内容でも、専門的に見れば実はこんな不思議なことが出てくるんだよ、というお話をする方法があります。

私の専門は現代日本語です。まさに皆さんが毎日、おそらくあまり意識せずに使っていることばですから、この「知っていること」に該当します。さっそく、現代日本語にどんな面白いことがあるのかを見ていきましょう。

## ところで…

- このコインパーキングの看板は、日本語としてどこが面白いでしょうか？

機器故障の祭には、駐車した番号  
機器に関係の無いトラブルには対  
ご連絡先 駐車場監理

- 撮影地：熊本市（特に表示がなければ以下同じ）

私は趣味で、町でいろいろな看板や貼り紙の写真を撮って回っています。ときには、面白い表現が書かれたものに出会うからです。これはコインパーキングの前に立っていた看板ですが、どの部分が変でしょうか？

正解は、1行目の「祭」です。おそらく「機器故障の際には」と書きたかったのですが、「サイ」で変換したら「祭」になってしまったのでしょう。わっしょーい！

## なぜ「看板」に注目するか

### ■ 日本語学的に面白い看板や貼り紙

- 単純に「変で楽しい」だけでなく、「これは何だろう?」「なぜ?」と考えさせてくれる。
  - 日本語学の知識を使いたくなる生の教材!

### ■ 「茂木コレクション」とは・・・

- 2005年から(こっそり)あちこちで撮りためた看板・貼り紙などの写真集。
  - 徳島(2005~2013)→熊本(2014~)
- 最新版をいよいよ公開!

前のスライドの看板は、いわゆる「誤字脱字」の類なので、「まあ、うっかりそうなのっちゃったんだろうねえ」と笑って終わりです。

しかし! 日本語研究者が見ると、専門心をくすぐられてしまう看板や貼り紙というものが存在します。専門的な知識を使って、全力で不思議な魅力を考えたいくなるのです。そして、その魅力を、授業やこのような機会に皆さんにお伝えしたいなってしまいます。

(以前勤めていた大学で、学内の看板の誤りを見つけたので、写真に撮って施設課の職員さんに教えてあげました。「先生、これあれでしょ? また授業でネタにしたりするんでしょ?」と苦々しく言われたので、正直に「するに決まってるじゃないですかー」と答えました。ついでに、私が書いた教科書にも載せてしまいました。)

このような写真のコレクションは、通称「茂木コレクション」(茂木コレ)と呼ばれており、既に15年の蓄積があります。今日はその一端をお見せします。

## (その1) 音声を考えたいくなる看板

■この看板, 気になる  
ところはありませんか？

- 靴やカバンの修理屋  
さんの店先で発見



7

まず, 日本語の音声の問題です。

大学の近くの, 靴やカバンを修理してくれるお店でこのような看板を見つけました。日本語としてどこか気になるところはないでしょうか？(答えは次のページ)

## 外来語の濁点(゛)がなくなる？

### ■元の語は“bag”

- ・ハンドバグ > ハンドバック
  - ・原語から考えると「グ」のはずだけど・・・

### ■他にもあります。

- ・ベッド(bed) > ベット
- ・ドッジ(dodge)ボール > ドッチボール

### ■この現象が起こる条件？

8

そう、「ハンドバック」と書いてあるのですが、原語の“bag”から考えると、日本語に入った外来語としても「ハンドバグ」が“正しい”はずです。

同じことは、他の外来語でも起こります。例えば、「二段ベット」を「二段ベット」, 「ドッジボール」を「ドッチボール」と言ってしまうこと、ありますよね。さて、これはどのような現象と言えるでしょうか？

ポイントをざっくり言えば、「っ」(促音)の後に「グ」「ド」のような一定の濁る音(濁音)が来た場合に、濁音から清音(「ク」「ト」)に変わっている、というところですよ。

元々、日本語には促音に濁音が続く形はなかったと言われます。一方で、外来語として日本語に入ってきた語には(元は日本語ではなかったので)「促音→濁音」の連続があるのですが、実際の発音では、このような「促音→濁音」の連続が回避され、(日本語としてより不自然ではない)「促音→清音」の形に“戻して”しまう現象が起こるようです。



## ただし、熊本の人には得意？

- 「促音→濁音」が普通に使われている。



9

ただし、このような現象には、地域差があるようです。私は熊本に来て、この「促音→濁音」をよく見聞きするようになりました。

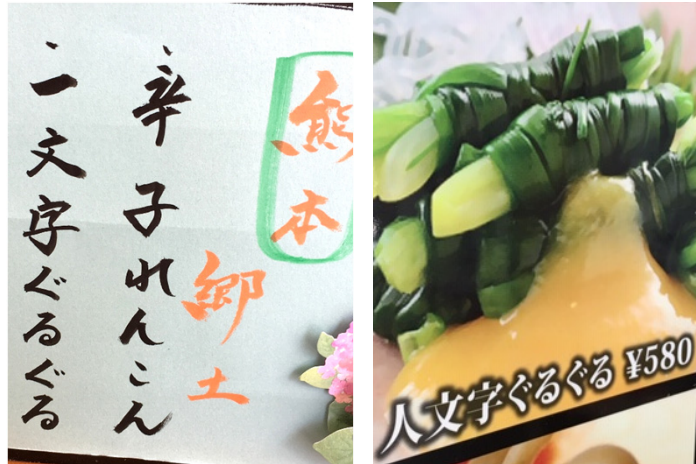
例えば、ジュースの自動販売機に熊本方言で「だご冷えとっばい！」(すごく冷えてるよ！)と書いてあったのですが、「促音→バ(濁音)」という連続になっています。大興奮です。さっそく撮影しました。

なお、この写真を撮っているところを下校中の小学生軍団に見つかり、「珍しいものあるのかな？」「『だご』だって！」と盛り上がってくれたのですが、ごめん、おじさん実は「冷えとっばい」のところに興奮してたんだ……。

## (その2) 辞書で調べたくなるメニュー

### ■「ひともじのぐるぐる」を知っていますか？

- 「一」？
- 「人」？



10

次は語彙の例を見ます。

熊本の郷土料理に、「ひともじのぐるぐる」という不思議な名前のものがあります。ビジュアル的には右の写真のような、細いネギをぐるぐる巻いた料理です。酢味噌でいただきます。

この「ひともじのぐるぐる」は、和食店や居酒屋のメニューでもよく見かけるのですが、街の飲食店街を歩いてみると、「ひともじ」の表記には「一文字」と「人文字」があることに気がきました。これ、どっちが“正しい”のでしょうか？

## 「一文字」？ 「人文字」？

### ■ 国語辞典で引いてみる

- 「人文字」だけ載っている辞書
  - ・ 現代語重視
- 「一文字」も載っている辞書
  - ・ 古語にも配慮

### ■ 古語辞典も引いてみる

- ついでに、「ふたもじ」は何でしょう？

11

そこで、辞書を使って「ひともじ」を調べてみます。(皆さんもお手元の辞書で引いてみてください。)

皆さんが教わった国語の先生の中に、「国語辞典はいくつか引き比べるといいよ」とおっしゃる方がいらっしゃったかもしれません。実はそのとおりなのです。

いくつかの国語辞典を引いてみると、「人文字」のみが載っているものと、「人文字」「一文字」の両方が載っているもの(比較的大きめの辞書はこちらです)とがあることに気がきます。

後者の辞書は、編集方針として、現代日本語の語彙だけでなく古典日本語(古語)も載せているか、古い表現にも目配りしているものだと考えられます。「ひともじのぐるぐる」の「ひともじ」の意味は、まさにこの古い表現としての「一文字」の説明のところに書いてあります。

国語辞典に載っていなかったら、古語辞典を引いてみてください。(せっかくなので、ついでに「ふたもじ(二文字)」が何なのかも引いてみましょう。)

## (その3) 文法のセンスを問う貼り紙

■この文、どう  
解釈できますか？

- 撮影地：  
島原市



12

次は文法のお話です。私は日本語の文法を専門としているのですが、世間には文法嫌いの方が多く、「文法楽しいですよー」と言うと「珍獣がしゃべった……」というような目で見られます。いいんだい。

写真は、小さな岩の形をしたチョコレートやコンペイトウなどのお菓子が買える自動販売機です。紙のカップをセットし、お金を入れてハンドルを回すと一定量のお菓子が出てくるしくみです。

そこに「カップだけは取らないで下さい」という貼り紙があったのですが、この文は二義的です。どのように解釈できるでしょうか？

## 文法的に考えてみよう

### ■「カップだけは取らないで」(その1)

- 「(チョコは取ってもいいから)カップは見逃してほしい」解釈
  - ・ 類例:「命だけはお助けを！」

### ■「カップだけは取らないで」(その2)

- 「(チョコを買わずに)カップだけを取るのはやめてほしい」解釈

### ■どちらの解釈が出やすい？

「カップだけは取らないで下さい」の第一の解釈は、「他のものは取ってもいいけど、カップは取らないでほしい」という解釈です。

“唯一それだけは対象から除く”という、「命だけはお助けを！」「あいつだけは許さねえ」などの「だけは」と同じ使い方です。

もう一つの第二の解釈は、「お金を払うことなく、カップだけを取って行くのはやめてね」という解釈です。

たぶん、水を飲んだりするのに持ってっちゃう人がいるんでしょうねー、と想像できるように、おそらく意図された解釈はこちらです。でも、「カップだけは～」という問題の文を文脈から切り離してみると、第一の解釈の方が優勢ではありませんか？

なお、全国から「だけ」「も」のような助詞の専門家が集まる研究会があったのでこの写真を出してみたのですが、案の定キャッキヤと盛り上がることができました。

## (その4) 日本の漢字を楽しめる表示

### ■この漢字, 知っていますか?



14

さて、次は文字・表記の問題です。

日本の国語教育では、小学校から高校までで約2,000字くらいの漢字の読み書きができるようになりますが、上の写真に、皆さんが知っているのとは違う形の漢字はないでしょうか？

(左の写真の最初の文字、「犬」にも見えるのですが、単に塗装が剥けているだけなので、そこは除きます。)

## 漢字の形のいろいろ

- 一般的な漢字(2,000字程度)と「似ているけど違う形」の漢字(「異体字」)

- ・ 蘇/蕪, 軽/圣 (→地域限定?)

- 例えば, 渡辺さんの「辺」は…

- ・ 辺 邊 邊 …

15

左の「大阿蘇ハイツ」の看板では、「阿蘇」の「蘇」の字の下の部分、「魚」と「禾」の左右が逆になっています。

右の「又にと」は、「軽」自動車専用の駐車場に書かれていた漢字です。「車」がなくても「軽」を表しています。

このように、私たちがよく知っている漢字と(同じ意味を表すのに)違う形になっている漢字を、専門的には「異体字(いたいじ)」と言います。

有名なのは、「渡辺」さんの「辺」の字です。「邊」や「邊」を書く人はしばしば見ると思いますが、実はこれだけで2桁の異体字を持っています。

(この「辺」の異体字で神経衰弱をする、『渡る世間はナベばかり』というカードゲームをやってみると、日本語研究者でも泣きたくなります。)

## 「車のない軽」コレクション

- 熊本市内にも結構あります。
- Googleマップで公開しています。



- 「車のない軽」で検索！

16

先ほどの「又にと」の「ケイ」は、地域的な偏りがある字だと思われる。

私の経験では、九州に来てからわりと見るようになったのですが、よく見られる県とそうでない県があるようです。(熊本県以外の方、地元で見たことはありますか?)

熊本市内にも、非常に多くの「又にと」があります。うろろしながら写真を撮っていたら100以上集まったので、「車のない軽」コレクションを公開してしまいました。

このコレクション、ネット上で公開していますので、興味のある人は「車のない軽」で検索して、見てみてください。(皆さんの身近にあったら、ぜひ教えてください。)



## レアな「車のない軽」

### 四角入り



### 柱に掲示



### 白黒反転



17

ちなみに、私のコレクションの中でレアなとっておきを3種類紹介します。

左は、四角の中に入った箱入りさんです。「又にと」だと思って見なければ気付かないかもしれません。非常に珍しいので、「四角・ケイ」と呼んで大切にしています。

真ん中は、舗装面ではなく柱に掲示されていたもので、今まで1箇所しか見たことがありません。私はひそかに「エアー・ケイ」と呼んでいます(←分かる人には分かる)。

右は、熊本県立大の学生さんに教えてもらったものですが、白黒が反転しています。文字部分が黒いので、「ウコッ・ケイ」というコードネームを付けました。

## (その5)熊本方言を堪能できるあれこれ

### ■私(茂木)は愛知県出身

- 熊本の方言は面白い！
  - 場所に関係なく写真を撮りまくりました。

### ■撮った後は・・・

- 「方言辞典」で調べる。
- 奥様(熊本生まれ)に聞く。
  - 「ニュアンスはどんな感じですか？」

最後に、方言を見て行きましょう。

私自身は中部地方の出身で、関東の大学に進学したので、熊本方言との本格的な出会いは仕事で熊大に来てからです。

周りのことばを聞くたびに何らかの発見があるのですが(街を歩いているおじさんたちの会話に耳を傾けて「この表現、本当に使われるんだー」と感動していたりします)、熊本では看板や貼り紙でも方言を結構目にします。

昆虫採集は捕まえた虫を図鑑で調べますが、それと同じで方言の写真を撮ってきたら「これ、何だろう？」と方言辞典で調べます。

細かいニュアンスが分からない場合は、奥様に聞きます。(敬語で?)

## あとぜき

- 共通語では：  
「扉を開けたあとに  
きちんと閉める」？
- 「せき」は漢字で書くと  
「塞き」「堰き」
  - 「(川を)せきとめる」



19

熊本方言で有名な、独特の表現の一つに「あとぜき」があります。

熊本出身者の中には、これを方言だと気が付いていない人もけっこういるようで、公的機関やお店の入口のドアでもしばしば見かけます。(熊大の食堂にも貼ってあるそうです。)

個人的には、自動ドアに貼ってあったら変に感じるのかな？ とか、ドアだけじゃなく窓にも使えるのかな？ とか、筆箱の蓋はどうなのかな？ とか、「あとぜき」できるものの限界を知りたくなってしまいます。

## さしより

- 共通語では:「さしあたり」「とりあえず」



20

今年の2月に、熊本市街の中心部にあった熊本パルコが閉店しました。写真は  
そのときのキャッチフレーズです。閉店後はビルの建て替えが行われ、同じ運営  
会社の商業施設が入る予定とされています。

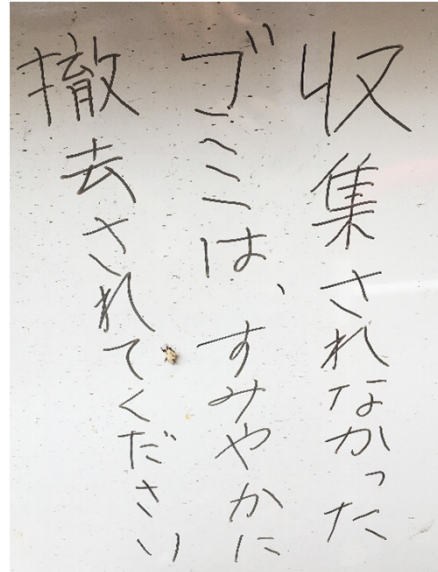
「さしより」は熊本方言で「さしあたり」「とりあえず」のような、一時的な措置であ  
ることを表す語です。「お別れだけど、また会えるよ」という、切ないけど前向きな  
気持ちが、この「さしより」に表われているように思います。

## ～されてください

### ■ 共通語では：

「なさってください」

- 「撤去される」は  
“尊敬”解釈
- ゴミに呼びかけて  
いるわけではない  
（「撤去される」を  
“受身”解釈）。



21

ポケモンを探してうろろしているときに、住宅地のゴミ置き場で見つけた貼り紙です。「収集されなかったゴミは、すみやかに撤去されてください」、これ、どういう意味ですか？

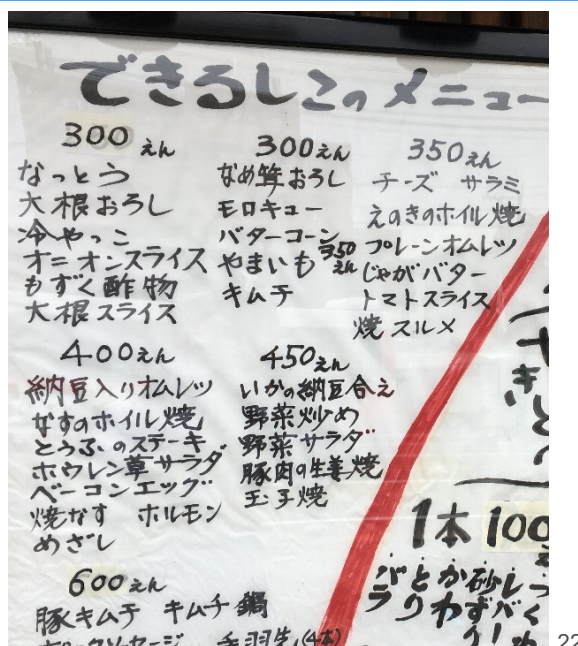
私は最初、「おとなしく逮捕されてください」のように、ゴミに撤去されることを呼びかける貼り紙だと思ってしまいました。このときに「される」は〈受身〉の解釈ですね。

しかし、熊本では「～されてください」の形で、“～なさってください”という〈尊敬〉の解釈ができます。分別が不十分な形でゴミを出した人に、引き取ることを呼びかける貼り紙です。（気付かれにくい方言です。）

## できるしこ

### ■ 共通語では： 「できるだけ」

- 「-しこ」表現
  - 「こ(れ)しこ」  
(これだけ)
  - 「あるしこ」  
(ある分だけ)



通勤途中に居酒屋の前を通りかかったら、「できるしこのメニュー」と書いてありました。たくさん料理が食べられます。(やまいも、値上げされたんでしょうか。)

一瞬、ギャルが「はあー？ うちにもできるし！ このメニュー！」と叫んでいる図が想像されたのですが、この切り方は間違っています。熊本方言で「できるしこ(でくっしこ)」は「できるだけ」を意味します。

この「しこ」は、分量を表す「だけ」に相当します。「こしこ」なら「これだけ」, 「あるしこ」なら「あるだけ」の意味です。

## 最後に考えてみよう

- 熊本の人には「何のために」看板や貼り紙で方言を使っているの？
  - ・ 日常生活のことばである方言は、本来的に「話し言葉」。
  - ・ 書くときには方言は(原則)使われない。
- 方言の社会的地位の変化
  - ・ かつては、方言に対する評価は低かった。
  - ・ 近年は、例えば「面白い」「萌え」の対象。

以上、茂木コレクションを楽しんでいただきましたが、ここで終わるとただの自慢です。説明会の資料として何とか格好をつけなければなりません。

ここで疑問に思っていたきたいのは、「方言」(地域のことば)は、本来的に日常生活で使われる話しことばであり、例えば記録をとったり文章を書いたりするときに使うものではありません。

しかし、現在ではさまざまな形で方言で“書いた”看板や貼り紙を見ます。これには方言の地位の向上という歴史的背景があり、近年では方言が娯楽の対象になったり、さまざまな活動に活用されたりするようになっています。

## 方言を使ったメッセージ

### ■ 熊本地震後の復興スローガン



24

方言の活用の一例として、熊本地震(2016年)の後にあちこちで見かけた「復興スローガン」があります。

復興スローガンで使われる表現にはさまざまなバリエーションがあるのですが、「がまだす」(がんばる)、「ばい」、「けん」といった方言を使ったものが見られました。

このようなスローガンは、「みんなで困難に立ち向かおう」という呼びかけのために貼り出されたものです。(最近になって、新型コロナウイルス感染症に立ち向かうためのスローガンを見るようになりました。)

では、このような媒体で方言を使うのは「なぜ」でしょうか？



## 復興スローガンの作られ方

### ■ 方言の使用／不使用の“選択”

- 方言を使う？ 共通語を使う？
  - 何のために？（どんな気持ちを表す？）
  - その表現は、誰からのもの？
  - 誰に向けたもの？

### ■ 根本的な《問題》

- 方言で表現しようとする理由は？
- 私たちにとって方言ってどんな存在？

25

ここで確認したいのは、広告のメッセージや復興スローガンのような人に呼びかけるような貼り紙では、（共通語で書いてもいいはずなのに）方言で書くことを「選んでいる」ということです。

では、それは何のためでしょうか？ 方言で伝えることのメリットは何かあるのでしょうか？ そもそも、誰から誰に伝える場合に、方言で書くことができるのでしょうか？

さらに大きな問題を提起すると、私たちが方言を使って表現しようとするのは「なぜ」でしょうか？ 方言は大事にしなければならない、と授業で習ったりしますが、それは「なぜ」でしょうか？ 地域のことばである方言は私たちにとってどのような存在なのでしょう？

## 《問題》を見つけた！

### ■「書きことば」としての方言

- みなさんはメールやLINEで方言を使う？
  - 意識的に使うなら、どういう目的で？
- 貼り紙や看板も同じだろうか？
  - 相手と目的の関係は？
    - 「同じ方言の話し手」に対して？
    - 「よそ(他地域)の人」に対して？

…というようなことを「考える」のが大学です。

この資料の最初の方で、大学の勉強の最終地点は、「問題」を見つけ、学問を使ってそれを解くことだ、と述べました。

私は茂木コレクションの収集を通じて「なぜ方言を書くのか」という問題にたどり着きましたが、この話を授業ですると、熊大の学生の中にも「同様の疑問を持っていました」という人がけっこういます。

皆さんも同級生や友達と、LINEなどで方言を使っておしゃべりすることがあるかもしれません。変換に苦労しながら、それでも方言を書く(打つ)理由って何でしょうか？ これは貼り紙や看板で方言を使う理由と同じでしょうか？

不思議に思ったら、誰が？ 誰に？ いつ？ 何のために？ という疑問をどんどん出してみる。それに答えてくれる文献がないのなら自分で考えてみる。それが大学という場です。

もし、この資料を通じて皆さんが文学部や日本語の研究に興味を持ってくれたのなら、とてもうれしく思います。

熊大の文学部でお待ちしています！